



◇巻頭言 インシデント

山上東平

最近新聞などに「インシデント」という聞きなれないカタカナ語が時々出てきます。これは出来事の意味ですが、特に重大な事故や損失に繋がりがねないトラブルを言います。

小さな「インシデント、些細な事故」を予兆ととらえるかどうか、重大事に繋がりがねない芽を摘むという意味では、日ごろの目配りが大切です。

米軍のヘリコプターからのドアの小学校運動場への落下、新幹線の台車の亀裂、その前に「インシデント」は何かあったのでしょうか？

私たち毎日の生活にも小さな事故が大きな事故の予兆に成り得ることが多々あります。

労働災害でいうハインリッヒの法則で言えば、重大事故の背後には 29 件の小事故さらに 300 件の「インシデント」が隠れているとされています。災害だけでなく、毎日の生活での行動上、健康管理上の「インシデント」に気づき安全で健康な毎日をすごしたいものです。

今年も新たに「瀬上さとやまのりの会」の活動が始まります、安全で楽しい活動が続きますよう、頑張りましょう。

◇平成 30 年 1 月・2 月の活動予定

お願い：1 月、2 月はイベント・交付金関連の作業等が多数あります。

部員各位にはご協力をお願いします。

- 1) 1 月 14 日 (日) 9 時半～14 時半 [定例作業] ・集合場所 池の下広場

◇作業目的：管理型スギ林への保全作業 (オオタカの舞えるスギ林へ)

：自然体験教室の準備 (栄区からの委託業務)

- ・作業場所：尾根道大丸エリア (区域 A)

：公田の竹林

- ・作業内容 ①安全祈願祭

②交付金対象地の測量

③区域 A 大丸広場側沢沿いの保全作業

④公田竹林より竹材の切り出し (自然体験教室用)

- ・持ち物 常備具 (竹引きノコ・手ノコ・ナタ)、お弁当、飲料水、他必需品

※ (各位にお願い) 竹材を入れる適当なダンボール箱を 1 ヶ持参して下さい

【持参器具】作業旗、シート、救急箱、チェーンソー、ロープ、ポール、カケヤ

- 2) 1 月 20 日 (土) 9 時～14 時 [臨時作業] ・集合場所 公田竹林西駐車場

◇作業目的：自然に親しみ自然環境を守り継承できる子供達の育成

- ・作業場所：公田竹林・栄区役所 (女性陣は 9 時直接区役所集合・トン汁作り)

- ・作業内容 ①竹の間伐実習 と 竹細工作り

- ・持ち物 常備具 (竹引きノコ・手ノコ・ナタ)、ナイフ、ペンチ、弁当、飲水。他必需品

【持参器具】作業旗、シート、救急箱、

2-② ◆新年会：17時30分より、大船海福（詳細は浅見氏メール参照）電 050-5816-3383

3) 1月28日(日)9時半～14時半〔定例作業〕 ・集合場所 池の下広場

◇作業目的：管理型スギ林への保全作業（オオタカの舞えるスギ林へ）

：横浜レンジャーズ、谷戸の子供教室の前準備

・作業場所：尾根道大丸エリア（区域A）・道場丸作業エリア（区域B）

・作業内容 ①枯れ木・欠損木・弱木・アオキ・シロダモの除伐

②体験教室時の伐採木の選定

③作業道の開作

・持ち物 常備具（カマ・手ノコ・ナタ）、お弁当、飲料水、他必需品

【持参器具】作業旗、シート、救急箱、チェーンソー、ロープ、カケヤ

4) 2月4日(日)9時～14時半〔臨時作業〕 ・集合場所 池の下広場

◇作業目的：谷戸の子供教室の開催

・作業場所：道場丸作業エリア（区域B）

・作業内容 ①ノコ・ナイフの使い方（玉切り・コースター作り）②伐採実習

・持ち物 常備具（カマ・手ノコ・ナタ）、お弁当、飲料水、他必需品

【持参器具】作業旗、シート、救急箱、チェーンソー、ロープ、ナイフ

参加者用（ヘルメット・手ノコ）

5) 2月11日(日)9時～14時半〔定例作業〕 ・集合場所 池の下広場

◇作業目的：管理型スギ林への保全作業（オオタカの舞えるスギ林へ）

：横浜レンジャーズ・ボラ塾生への体験教室の開催

・作業場所：尾根道大丸作業エリア（区域A）

・作業内容 ①枯れ木・欠損木・弱木・アオキ・シロダモの除伐 ②伐採実習講座

・持ち物 常備具（カマ・手ノコ・ナタ）、お弁当、飲料水、他必需品

【持参器具】作業旗、シート、救急箱、チェーンソー、ロープ、カケヤ

参加者用（ヘルメット・手ノコ）

6) 2月25日(日)9時半～14時半〔定例作業〕 ・集合場所 池の下広場

◇作業目的：管理型スギ林への保全作業（オオタカの舞えるスギ林へ）

・作業場所：尾根道大丸エリア（区域A）大丸広場側斜面地

・作業内容 ①枯れ木・欠損木・弱木・アオキ・シロダモの除伐。

・持ち物 常備具（カマ・手ノコ・ナタ）、お弁当、飲料水、他必需品

【持参器具】作業旗、シート、救急箱、チェーンソー、ロープ、カケヤ

（30年3月4月号の原稿に関し、上記活動報告は長谷川光子氏、巻頭言は渡部文博氏、リレートークは行木秀雄氏です。原稿の締め切りは30年2月26日(月)枝村氏迄宜しくお願いします)作業を欠席される方は、メール(TOKAMI6666@aol.com)又は電話(894-2800)で山上部会長迄。

(1) 平成 29年11月12日(日)晴 9:30~13:15 作業場所 : 尾根道大丸エリア(区域 A)
 参加者 : 山上、渡部、渡邊、佐谷、伊藤、小宅、三島、浅見、酒巻、野沢、戸賀澤、中塚(事務局) 計 12名 ボラ塾生 計 8名 総計20名

作業内容: ボラ塾生の班分け、ラジオ体操のあと、9:50 現地着。 班ごとに、枯れ木、欠損木、アオキ、シロダモの除伐。 女性2名は苗床の補修後、区域Aの10m方形での杉調査。

* 11:45 ボラ塾生の作業終了(このあと、塾生及び中塚氏は座学会場へ)

* 酒巻、三島両氏チェーンソー講習受講済み。

* 今後の活動予定の打ち合わせ後昼食、13 時まで笹刈りを続け 13:15 解散



苗床の補修



杭打ち



杉調査

(2)平成29年11月26日(日)晴 9:30~14:00 作業場所; 尾根道大丸エリア(区域A)

参加者; 三島、竹内、渡部、渡邊、佐谷、酒巻、高嶋、山田、小宅、長谷川、伊藤 計11名

作業内容: 交付金で購入したチルホール、チェーンソーに管理名記入、稼働実績点検表作成義務あり(チルホール10回以上/3年、チェーンソー15回以上/3年)

チェーンソー2台使用し杉5本、シロダモ3本等効率よく作業し、昼食後も1時間続けた。杉の樹高をチェック【15. 37m】。12/6に林野庁の現地監査予定(渡邊、佐谷で対応)



チェーンソー



チェーンソーを活用



杉の切り倒し

(3)平成 29 年 12 月 10 日(日) 9:30~11:25

作業場所 : 尾根道大丸エリア(区域 A) 休憩ベンチより下側(谷側)

参加者 : 山上、佐谷、高嶋、伊藤、小宅、長谷川、三島、枝村、小島、野沢 計 10 名

作業内容: 9:30 集合 1 月 20 日(土)開催の子供自然教室(竹林)の道具準備分担決め、

9:55 現地着。枯れ木、欠損木、弱木、アオキ、シロダモの除伐、笹刈り

収穫祭に参加のため、11:10 作業終了 11:25 解散



瀬上池に写りこむ紅葉



チェーンソーで玉切り



餅つき

◆ リレートーク

花鳥風月

戸賀澤 智

wiki で調べてみると「花鳥風月は美しい自然の風景やそれを重んじる風流を意味する四字熟語である」と書いてある。先日、とある研修でよこはまかわを考える会（通称、かわの会）の人とご一緒する機会があり、さらに「花鳥風月のまちづくり」なる本を頂戴した。

この本は座談会形式で語られており横浜の環境保全に対する様々な方の思いが詰まったような本である（ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんがね）。横浜の発展に伴う都市問題、エコシティ、環境学習、都市河川の再生・活性化などの内容となっている。

普段は樹林地や里山に目が向いてしまうこともあり河川の再生・活性化の話はまた違った興味深さがある。かわの環境保全の始まりの頃の話でちょうど大岡川の話があり、クリーンフェスティバル in 上大岡（1983年）当日には「1000人の人が一斉に川へ入ってゴミを引き上げた。」と書かれてあった。1983年にこの規模の仕掛けができるのは素直にすごい。

また、瀬上からも近い狹川の話も載っていたので紹介してみる。「本郷台駅周辺の団地が開発された地域の小さい川で、いつも浸水被害があつて、河川改修でやっと被害がなくなった」と書いてある。ただ、載っている1982年の写真を見ると草も何も無いコンクリートに水があるだけのまっすぐな味気の無い川の写真である。これが蛇行低水路の環境整備を行った写真では草もあり昆虫や魚もいそうな水辺の写真となっている。子供は素直な冒険心で川に入つて遊ぶようになり、コイを放流すると、川にコイが泳いでいるということで川として認識しはじめたと書いてある。狹川の話はそこで終わつてたが、そこからは地道な活動で親しみのある川になったのは想像に難くない。

川の環境保全のお手伝いはまだ経験無いが、里山保全と同じような面白さと活動場所への愛着が経験できるのではないかと確信する。今回の川のことなどまだまだ知らないことも多々あるが、ある意味楽しみが増えるので知らないことが多いのも悪くはないものである。

◆ 編集後記

11月に行った宮城、伊豆沼の日の出である。数千羽のマガンが朝食前に休んでいた。乾田に餌を求めて家族単位で編隊を組み飛び立つ様は見ごたえがあった。米どころとは言えこれだけ多くの野鳥の胃袋を満たす広大な自然に感謝である。12月18日氷取沢ではルリビタキを撮る人達が居た、横浜では貴重な緑で残したい自然である。伊藤

